令和７年度　第６回　磐田市の国民健康保険事業の運営に関する協議会会議録

１　日　　　時　　令和８年１月29日(木)　午後３時から午後４時00分まで

２　場　　　所　　磐田市役所西庁舎３階　304・305会議室

※ZoomによるWEB会議システムを併用

３　出 席 委 員　　○委員12名（欠席２名）

○公益代表３名

○被保険者代表４名

○保険医・薬剤師代表３名

○被用者保険等保険者代表２名

○事務局８名

・健康福祉部長、国保年金課４名、健康増進課３名

４　傍 聴 人　　なし

５　会議の流れ　（１）開会

（２）健康福祉部長挨拶

（３）会長挨拶

（４）議事

①令和８年度国保特別会計予算（案）について

②特定健診・特定保健指導の実施率（法定報告）と実施状況について

（５）その他

事務連絡

（６）閉会

６　会議の内容

○定足数

委員14名中12名（委員の半数以上）の出席があったため、磐田市の国民健康保険事業の運営に関する協議会規則第６条の定足数を満たし、会議は成立していることを報告した。

○議　事１

事務局（国保年金課）が「令和８年度国保特別会計予算（案）について」の説明を行い、報告内容について質疑応答の時間を設けた。

<質疑応答・意見等>

委員　来年度以降の予算にも影響があると考えるが、賦課限度額のアップはいかがか。

事務局　国から基礎課税分（医療分）について１万円引き上げるということで情報が入っている。

本市でも国にあわせて、来年度から賦課限度額を上げていく予定である。

委員　歳入部分の国庫支出金のパーセンテージが上がっている。説明をお願いしたい。

事務局　子ども・子育て支援金制度の施行に伴い、国民健康保険税算定システムの改修に対する国庫補助金で、補助率が 10 分の 10 となる。

なお、同額を歳出の総務費に計上している。

委員　歳入の部の一般会計からの繰入金ですが、法定外繰入金が含まれているかどうか教えていただきたい。

事務局　一般会計からの繰入金は、法定繰入金となる。

基金繰入金については、基金積立目的の法定外繰入金であり、決算補填等目的の繰入金ではない。

○議　事２

事務局（健康増進課）が「特定健診・特定保健指導の実施率（法定報告）と実施状況について」の説明を行い、報告内容について質疑応答の時間を設けた。

〈質疑応答・意見等〉

委員	晩若年層の特定健診受診ハガキの反響はどのくらいあったか。何パーセントの増加になったか。
事務局	現状２ヶ月遅れて結果が市に届く関係で、現在だと 11 月末時点になるが、昨年度と比較した場合、１％の増加が見られている。最終３月までの結果をもって、報告させていただきたい。
委員	コロナから在宅ワークが増えたりして、若年層が体を張って働いてないというような状況が多くなっている。動かない分だけたまってしまうということもあって、40 代ではもう遅いかなと。もっと年齢を下げるアプローチ、国の制度へのアプローチ、そういうことを考えていく余地はあるか。 今年受けて、栄養士が来てくれたが、今からやろうと思ってもきつい。70 歳になってから始めようと思っても手遅れである。もっと若い世代から取り組んだ方が効果が出ると考える。会社に勤めている方で、法定健診、労働安全衛生法の健診を受けられる方はいいが、それから外れた方が結構いると思う。そういう方も含めて広げるようなシステムができるとありがたい。
事務局	健診の対象年齢に関しては、財源がないとなかなか広げるきっかけが難しいとは思うが、より若い世代により早く、もっと広い人たちにアプローチしていく必要性をすごく感じている。保健指導を通じても、もっと早いうちに、ひどくなる前に知っていればどうにかできたという声はあるので、健診以外でも健康作りの事業を通じて、国保社保問わず健康に早いうちから意識を持ってもらうようなところは今後力を入れていきたいと考えている。

委員　特定保健指導の実施率が高くて、すごいと思って見ているが、特定保健指導の 78.1%、これは保健指導を受けるルートというのは健診当日に受ける方もいて、訪問をするケースと、ここに書いてある土日祝日の杏林堂薬局、これは特定保健指導の受診券を持って自分で行くっていうパターンですよね。訪問されるというのは来てもらえるから受け入れていただけると思うが、自分で行くというのはハードルが高いと思う。実施されて、杏林堂薬局とかにどのぐらい行ったかというのがわかるか。

事務局　パーセンテージでは持ち合わせていないが、実際杏林堂はそんなに数は多くはない。土日とか限られた時間しか受けられない方が、限定的に利用しているようで、杏林堂とは何か促進するような仕組みができないかという相談をしているところである。

委員　健診当日のパターンが一番高い感じですかね。

事務局　初回は健診で受ける方も多いが、２回目、３回目の継続のところはどうしても保健師による訪問するところと考える。

会長　内訳も今後の分析には必要になってくると思うので、今後の課題としてお願いできればと思う。

委員　こんなに高い成績っていうのは、周りを見渡してもないと思うので、努力が実ったと考える。特にＡＩを活用した受診勧奨ハガキであるとか、ＬＩＮＥを使った特定健診～案内ということで、業者に委託も含めて積極的にやられて感銘を受けた。一つ提案になるが、ある市が、かかりつけ医みなし健診ということで、生活習慣病で通院されているけれどもなかなか健診に行かない方について、健診項目、足らない部分だけを受けていただくと、健診１件でカウントできる仕組みを導入しようとしているところがある。この事業は地域的になるべくたくさんの医者、保険者が参画

して対象者送り込むことで成立する事業なので、考えてもらえるようであれば、県西部全体の健診率が上がっていくと期待している。実施する余地があれば、検討をお願いしたい。

事務局　　検討していきたい。

委員　　特定健診受診率の現状ということで、今之浦地区はほとんど最低で、受ける方が少なくて、課題になっている。会議等で話しをするが、なかなか良い対策がないので、何かいい方法があれば教えていただきたい。

事務局　　特効薬があればいいが、例えば、地区の集まりがあるところに保健師が出ていって、昨年の健診結果がある人はお持ちくださいと。項目の見方とかを説明したり、あるいは受けてない方も来ていただいて、健診ってどういうものなのかっていうのを知っていただくような場を地域で用意いただけるようであればそういったところは保健師をぜひ行かせていただき、皆さんに意識付けするきっかけになればと考えるので、機会があれば、教えていただきたい。

会長　　車で販売するようなものがあり、ストアと組んで運動指導とか保健師の指導を中山間部の方まで行って、月に 1 回か 2 回、そこで保健の指導まではやってなかったと思うので、そういうところで見方とかやってくださるといいと思う。

委員　　ＬＩＮＥを活用した特定保健指導の実施ですが、具体的に教えていただきたいのと予算規模を教えていただきたい。

事務局　　ＬＩＮＥの部分ですが、経費はほとんどかからない。今ある既存の市の公式ＬＩＮＥを活用しながら、特定保健指導用のツールというのが公式にリリースされており、そち

らを保健師が磐田市バージョンに整えている最中である。どういった内容かというと、初回の指導のときにＬＩＮＥ登録すると、ＬＩＮＥを通じて報告をいただくことができるようになる。あなたの立てた目標に対して、進捗どうですか、自分はこうです、体重、腹囲はこうですというのをＬＩＮＥでいただくと、それに対して、ポジティブに取り組めるようなメッセージを送ったり、双方向性もあるので、家にいながら指導ができる。今までお会いできないので途中中断になっていたような方を最期まで指導継続が可能になるのではないかと期待をして、担当保健師の方で取り組んでいるところで、おそらく次年度早いうちに始められるかなと考えている。

会長　　ＬＩＮＥは便利ですね。医療機関で、朝９時に受診をして、すぐそばの薬局で処方箋を申し込んだら、もらえたのが２時だった。ＬＩＮＥで磐田市内のウエルシアに処方箋だけ送って仕事に行っていると出来ましたとくるので帰りに寄って帰る。ちょっとしたことで非常に便利なことってあるなと思いつつ、皆さんの生活の中で、良い意見が逆にあればこちらから市にもこういうのがあるよというのがあればお願いしたい。

委員　　特定健診受診率ですが、集団健診健診は何パーセント、開業医で受けた特定健診は何パーセントというのは出ているか。

事務局　　パーセントですぐには出せないが、令和６年度の受診の状況を見ると、開業医で受けたのが 3,000 名ほどで、集団バスで受けたのが 4,500 名ほどになる。他に人間ドック等を行っている。

委員　　地区ごとの率は出るか。

事務局　　分析をかければ傾向的には出る。いろんなものが含まれる、含まれない、例えば障害のある方の数字が地区ごとに

分けられないとか細かいところはあるが、おおよその傾向としては分析すれば出すことは可能だと考える。

委員　今までの経年のデータとかを見て、例えば、この地区で集団を受ける人が多いとか、開業医で受ける人が多いという差があると思う。豊岡地区がやってないということであれば、医者に連絡して、今平均でこうなっているのでお願いしたい、というアピールはできると考えるので、そういうのを工夫してみてもいいのではないか。

保健指導をやっているところは、この 78.1%の中で、どこの機関が一番頑張っているか。磐田市の保健師ばかりか。病院とかもやっていると思うが、どんなところがどのくらいやっているか。

事務局　調べて回答したい。保健師がやっているものもあるし、病院等に委託している部分もある。

委員　多分保健師がやっているのではないか。

事務局　終了まで行くかどうかとか、あと病院に委託したり健診機関に委託している部分だと、何回か架電しているが、回数のルールとか、こういう条件になったら終了というのが決まっている。もう少し粘ったら最後まで続けられたかもしれないというようなケースでは、直接保健師が行っているところのメリットがあると考える。

委員　電話は、大体 3 回くらいか。

事務局　２，３回です。

委員　一番問題なのは、どこにもかかってない人で特定健診を受けてない人が問題になると考える。かかりつけでも治療している方は、特定健診を受けないという方もいるかもし

れない。特定健診を受けてない、しかも医療機関にかかってない人が一番ターゲットになる対象ではないかと考える。その辺りが、医療機関にもかかってなくて、特定健診を受けてない方が未受診の中にどれくらいいるのかわかるといい。

会長　　これは、スライドのＡＩ分析の中に、健診歴無し、レセプト無しみたいな、そういう方が該当ということですかね。そういうことはピックアップがしやすいってことですね。

ある番組で、この辺りは健康寿命が高いと取り上げられていた。その理由を、工場が多くて歩く距離がとにかく仕事中に多いということを番組が取り上げていた。コロナ後に、在宅ワークが増えてきたというのを聞いて思い出して、やっぱ歩くというのはすごいいいことだということと、一旦落とすと上げるのも大変なので、若いうちに落とさないというところで、何とかもっていけるといい。

事務局　　当初の発送になるが、1 万 2554 人に勧奨ハガキを送り、そのうちの 3,099 人がレセプト無しということで、医療機関にかかっておらず、特定健診の受診もない方になる。

会長　　そういう方にもう一度アプローチをかけられるといいということですよね。

委員　　かかりつけ医で定期的に高血圧とかかかっている人は特定健診の必要性を感じてない方もいる。定期的に採血されている場合もあるので、そういう方は何もなければ当然受けないと思うので、特にそういう健診を受けてなくて、受診もないような方が一番アプローチしていく対象かなと考えたところである。

会長　　何かそういうやり方があれば、健康管理はどうされていますかぐらいの声かけでもいいかもしれない。何か一つでもあると少しずつ見えてくるものがあるのではないかと考える。

委員　　　　　　　　　40 歳と 50 歳が無料でやっているが、数年やってみて効果が出たのか、出てないのかというところをもう 1 回見直し、また他の何か、血液を見る項目を無料にするような節目の年だとか、例えば男性の方だとＰＳＡというのは、お金を払っているが、それを 60 歳だったら無料でやるとか、何かそういう他のプランを 40 代，50 代が増えないということであれば、こういうところに予算を使うということを検討していいのではないかと考える。

事務局　　　　　　　　それに関しても今後検討していきたいと考える。

以上で審議を終了し、閉会した。